日本鐵鋼協會記事

評議員會 大正十四年一月二十三日午後四時半より本會事所にて評議員會を開催し本邦鐵鋼事業に對する具體的方策に關して協議せり其概要次の如し。

目的 政府に於て本邦鐵鋼國策樹立の爲め製鐵鋼調査會を設けられたるは本會多年の翹望に添へる機宜の處理として歡迎する處なるを以て此際本會に於ても鐵鋼事業に對する具體的方策を講究し適當なる方法に依り之を同會委員又は政府に建議し同會設立の主旨の貫徹せらるる樣盡力するにあり。

調査起草委員 下記調査起草委員を選定別記項目に依り起草し、隨時評議員會を開き討議することを決議す、委員氏名は河村、俵、香村、今泉、鹽田の五理事の外、向井、江藤、門野、梅野、加藤の五氏等なり。

調査研究事項(甲)技術的方面 (基礎的方面) 1. 我國製鐵事業の現狀を詳細に調査する事 イ、原料一鑛量、鑛質、炭量、炭質、原料並に製品の運搬方法並に原料の割付 ロ、工場設備及び資本金額、社債其他の借入金 ハ、各工場生產費 2、我國製鐵業の設備不完全なる點を改良すべき具體案を作成すること イ、設備改良案及改良より生ずる利益 ロ、設備改良に要する資金の額 3. 本邦鐵鋼の現在及將來の需給關係を調査し其自給自足の可能なる程度を決定する事。

(乙) 政策方面 1. 本邦製鋼業が相當有利なる事業として成立する爲に各工場資本低下を要する程度及社債借入金を如何に處分すべきや 2. 設備改良に要する資金を如何に處分すべきや 3. 關稅及鐵道運賃の改正並に其程度、之より受くる利益、他の工業に對する影響 4. 各官廳用鐵鋼材の供給に關し政府の取るべき方針 5. 經營組織を如何にすべきや A 大合同、B 局部合同 C 其他調節機關 6. 其他一般振興方策。

當日出席者は河村驍、俵國一、香村小錄、今泉嘉一郎、鹽田泰介、野田鶴雄、門野重九郎、種子田右八郎、桂辨三、水谷叔彥、江藤捨三、渡邊三郎、日向庄作、川上義弘、松浦善助、加藤榮、合計十六名なり。

理事會 大正十四年二月四日午後四時半より本會事務所に於て理事會を開き次項に就て協議せり。

1. 入退會者に關する件 2. 第十回通常總開會催に關する件 3. 大正十三年度收支決算並に十四年度豫算案の件 4. 4. 本多博士講演速記印刷の件 之は次號に掲載することに決せり 5. 本會創立第十週年紀念大會開催の件 6. 其他會務に關する件 (以上可決)。

當日出席者は 河村驍、今泉嘉一准 、鹽田泰介、俵國一、香村小錄等なり。

編輯會 大正十四年二月四日午後四時半より本會事務所に於て編輯會を開き會誌第十一年第三號の原稿を選定せり、當日出席者は、杉村伊兵衛、田中清治、三島德七、鹽澤正一等なり。

新入會者

				紹介者
京都帝國大學教授	工學博士	正員	松村鶴造	(齋藤大吉、大矢喜兵)
佐世保海軍工廠造機部	海軍技師	同	織田久八	(川村幸太郎、大矢喜兵)
同	海軍技手	准員	野田佐吉	(川村幸太郎)
同	製罐工場	同	中島政次郎	(川村幸太郎)

退會者

農商務省技師	工學士	正員	高島三郎
市外西巢鴨町一二二九		同	岸本信太
南滿鐵道株式會社	工學士	同	小芝元吉
市外大久保百人町四九		同	南部麒次准
市外中野町新井二四五		同	城谷陸造
製鐵所技師		同	中園甚太郎
市外青山原宿二五〇		准員	高島三郎
製鐵所技師		同	今村元三郎
川崎市外日本鋼管株式會社		同	大山隆造
鞍山製鐵所		同	永田敬輔
鞍山製鐵所			吉村庄太郎
斐川發電所		同	原知道
岩手縣釜石製鐵所		同	吉田五郎

佐世保海軍工廠造機部	准員　森　隆　平	市外大久保町四三五	准員　中　村　政　雄
大阪鑄鋼所	同　小　島　明	室蘭市日本製鋼所	同　近　田　謙　輔

本多博士歡迎聯合講演會狀況　昨年十二月十三日午後四時半より帝國鐵道協會に於て日本鑛業會、機械學會、火兵學會及日本鐵鋼協會聯合して理學博士本多光郎君の歸朝歡迎講演會を開催せり、來會者三百餘名頗る盛會にて午後七時散會せり、其概況左の如し。

○座長（俵國一君）の講演開始に就て挨拶あり。

歐米の鐵鋼研究機關に就て　本多光太郎君（講演時間二時間半）

本講演は大正十三年三月以降八ケ月間に於ける歐米の鐵鋼業及び研究機關の視察談にして此間、本多博士は歐米に於ける學者と面談して冶金學上重要問題に就て意見の交換をせられたり、是れ實に斯學の進歩に著しき効果を齎らせるものなりとす。博士の言によれば金屬材料研究所の出版物が歐米の諸冶金學者間に非常に尊重せられ到る處、賞讃の辭を與へられたりと云ふ。講演は一、米國　二、英國　三、瑞典　四、佛國　五、獨逸等の順序に依りて詳述せられ、最後に研究所と工業とは互に密接なる關係を有し相提携して進歩せざるべからざるを論じ、更に研究所設立に關する方針並に研究者の養成等に就き經驗上極めて有益なる注意を與へられたり。右終て俵國一君より次の挨拶ありたり。

○座長（俵國一君）　今回四學會聯合して本多博士に歐米視察談を拜聽せんことを申出でしに快諾せられて態々仙臺より御出張になり有益なる御講演を長時間に亘りて拜聽するを得たるは誠に感謝に堪えざる所なり、我々は今歐米の工業並に研究機關に就て詳細に亘りて拜聽を得且つ最後に研究所の研究方針等に就て御經驗上の御話があり研究者に取りて重要なる參考資料と信ず、本多博士は金屬材料研究所を創設せられ爾來其研究は全く世界的となれり、御講演中に工業と學術研究の進歩とは共に相俟たざるべからざる旨を述べらる、遺憾乍ら本邦に於ては工業が此研究に伴はず、之は我々會員一同努力して工業の進歩を圖らざるべからざることなりとす、爾後吾人は益々材料を同研究所に提供して本多博士の指導を仰がざるべからずと、次で、一同拍手を以て謝意を表す。

右終て晩餐會を催ふす、其狀況並に本講演筆記は次號に掲載すべし。

一月廿六日聯合講演會狀況　大正十四年一月二十六日午後五時より、保險協會に於て、日本鑛業會と聯合講演會を催ふす。第一席に於て米國鑛山會社長ニール君の久慈地方砂鐵採鑛に就て一時間に亘り、英語講演ありたり、內容は其の沿革、地質、埋藏量、化學分析、製錬作業等なり。第二席に於て工學士今井長治君の硫黃鑛業に就て約一時間に亘り講演ありたり、此日來會者百五十餘名あり、頗る盛會裡に午後七時閉會せり。

右終て同會食堂に於て晩餐會を催ふす。出席者四十三名あり、之亦盛會にて午後八時半散會せり。

一月三十日講演會狀況　大正十四年一月三十日午後六時より日本鑛業會に於て講演會を催ふす、八幡製鐵所技師久保田省三君の製鐵所製鋼作業の現況及び我國製鋼事業の將來に對する私見、附、末未兼要氏の「八幡製鐵所の經營狀態に就て」に就て等約二時間半に亘り講演ありたり、右終て野田博士宮原信治君及び新倉利廣君等の質疑應答あり午後九時十分散會せり、此日雪天なりしも來會者六十餘名あり頗る盛會なりき。

本會准會員工學士駒井正枝君は大正十三年十一月、正會員工學士中村啓二郎君は本年一月二日逝去せらる誠に哀悼の至りなり謹みて弔意を表す。